

総務文教常任委員会行政視察委員長報告

- 1 視察期日 平成24年10月22日(月)から24日(水)
- 2 視察地 青森県八戸市・十和田市・岩手県花巻市
- 3 出席委員 滝瀬光一、湯澤美恵、工藤日出夫、金子真理子、
島野和夫、黒澤健一、現王園孝昭

4 視察事項

〔八戸市〕 人口24万478人（平成24年9月30日現在）

- ・地域密着型教育推進事業について

〔十和田市〕 人口6万5,326人（平成24年9月30日現在）

- ・セーフコミュニティの取組みについて

〔花巻市〕 人口10万1,556人（平成24年9月30日現在）

- ・合衆市イーハトーブ花巻構想（小さな市役所第2ステージ）について

以上の視察事項について、報告いたします。

はじめに、**八戸市**の視察概要について報告いたします。

「地域密着型教育推進事業」について

八戸市では、「地域の子どもは地域で育む」という理念の下、児童生徒の確かな学びと豊かな育ちに資することを目的として、地域密着型教育を推進し、推進校の運営に関して、地域住民や保護者等の参画をすすめています。

地域密着型教育推進事業を導入した背景には、①平成18年の教育基本法の改正（「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の新設）。②子どもを取り巻く急激な社会環境の変化。③八戸市における協働のまちづくりの推進がありました。それを受けて、平成20年に、文部科学省から委託（平成23年度からは補助事業）された学校支援地域本部事業（学校の教育活動に地域住民によるボランティアを活用する事業）の12校分の予算を活用し、そのうちの2校を地域密着型教育モデル校としてスタートしました。

地域密着型教育推進校になると、保護者や地域住民が学校運営に参画できる仕組みとして、保護者や地域住民の代表からなる地域学校連携協議会を設置し、地域住民等と学校の協働による「開かれた学校づくり」を推進しなければなりません。具体的には、①「願い」「情報」「責任」「学び」の四つを学校・家庭・地域社会が共有し、PTA活動や地域活動などとの連携・協力を深めることにより、よりよい教育環境と支援体制を整備し、学校教育の質を向上させる。②教育方針等に地域住民等の願いを反映させるとともに、地域の特色や地域住民等の教育力を生かした教育活動を展開することにより、児童生徒のふるさとへの誇りと愛着を育む。③地域の次代を担う子どもたちの健全育成を通して、明るく活力あるまちづくりに貢献する。この3点です。

八戸市の小・中学校は71校（小学校46校、中学校25校）ありますが、平成

24年度現在、そのうちの54校で地域密着型教育を実践しています。来年度は全小中学校で実践される予定ですが、今年度で学校支援地域本部事業が終了となることから、八戸市の全額負担（約1,200万円）となるとのことでした。

次に、**十和田市**の視察概要について報告いたします。

「セーフコミュニティの取組み」について

十和田市では、県内の中でも自殺者が多く（平成20年から22年までの病気以外の外傷による死亡の45%）、また交通事故の発生する割合が高い（平成19年から22年まで県内ワースト1位）という課題がありました。この課題解決に向けて、従来から市民ボランティアによる保健活動が盛んに行われていたことから、ボトムアップによるセーフコミュニティ認証取得（現在、全国で認証取得した4市町中、十和田市のみ）を目指しました。

平成19年4月に市長が認証取得を表明し、指標（国際基準）を満たすために、組織作りや予防プログラムの検討を2年間かけて行い、平成21年8月に京都府亀岡市に次ぐ、全国で二番目の認証自治体となり、現在、4年目を迎えています。

十和田市のセーフコミュニティ活動は、既存の組織や市民活動団体との協働によってすすめられてきました。特に平成19年に行政のセーフコミュニティ推進のサポート隊として発足した「セーフコミュニティとわだをすすめる会」は、セーフコミュニティ推進組織の委員やオブザーバーとしての参加やセーフコミュニティの理念や交通事故予防等の普及啓発活動等を行うなど、十和田市のセーフコミュニティ活動の中核を担っています。

セーフコミュニティの認証を取得することによって、すぐに自殺者や交通事故発生件数の減少につながるものではありませんが、これまで取り組んできた普及啓発等の地道な活動によって、市民の意識が変わってきたことで、以前よりも積極的にセーフコミュニティ活動に参加するようになったとのことでした。

一方、このような成果の反面、警察署や保健所等の各種機関の統計、データを必要とするために時間と労力がかかる、国内外のセーフコミュニティネットワークへの参加が負担、認証期間（5年）が短く、直ちに再認証の準備が必要になるなどの課題も多いとのことでした。

次に、**花巻市**の視察概要について報告いたします。

「合衆市イーハートブ花巻構想(小さな市役所第2ステージ)」について

花巻市では、平成19年4月から市内の小中学校区単位を基本に26の振興センター（現在は27の振興センター）を開設し、地域住民がその地域ごとに組織した「コミュニティ会議」を核として、地域の課題を自ら考え、行動し、解決する仕組みづくりや振興センターに配置された職員がその支援に取り組み、

都市内分権構築によるまちづくりを具体化する仕組みのひとつとして「小さな市役所構想」をスタートさせました。

コミュニティ会議には、それぞれの地域の課題を解決するための財源として、総額2億円の地域づくり交付金が、世帯数や面積等に応じて各コミュニティ会議に配分されます。配分された交付金については、各地域で課題となっている事業（道路の簡易舗装やカーブミラーの設置等）の財源に充てられています。

また、地域住民の共通認識のもとで地区の長期的な将来像（地区ビジョン）を明らかにする取組みをすすめており、現在策定中の1つを除き、既に26のコミュニティ会議において策定されたところです。

「小さな市役所構想」によって、各地域の特性を生かした活動が活発になってきたことから、これまでの活動の成果や課題を踏まえて、より安定し自立した地域づくりを継続し、幅広い世代の参画を推進していくため、平成23年度から、小さな市役所第2ステージとして、27の地区の集合体を花巻市と位置付けた「合衆市イーハトーブ（※）花巻構想」に取り組んでいます。

第2ステージでは、地域の自主的なまちづくりが安定的かつ継続的に行われるよう、基本となる区域や団体、市の支援等について定めた条例（花巻市コミュニティ地区条例）の制定や地域づくりの拠点として、地域住民のニーズに合わせた管理・運営と自立したまちづくりを目指し、コミュニティ会議による振興センターの指定管理の推進を図ることによって、自立した豊かな地域社会の実現を目指しているとのことでした。

（※）イーハトーブとは、花巻市出身の宮沢賢治による造語で、夢描き追い求めた理想郷のこと

以上が視察概要ですが、今後、本市においても参考になる事項については御検討をいただきますよう要望し、報告といたします。

なお、詳しい資料は議長への視察報告書に添付してありますので、必要な方は御覧いただきたいと存じます。

平成24年11月28日

総務文教常任委員会
委員長 現王園 孝昭

北本市議会議長 福島 忠 夫 様